

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5100m以下の寒冷渦に対応する低気圧が千島近海を東進。
500hPa 5280m付近のトラフに対応して、前線を伴った低気圧が日本のほるか東を北東進。
- ② 華中付近には500hPa 5700～5760mのトラフがあって、東シナ海は気圧の谷となっており、1時間に5～10mmの雨量を解析。
- ③ ①の低気圧と九州北部付近にある高気圧との間で気圧の傾きが大きく、北日本を中心に、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなっている所がある。
- ④ 850hPaで-6℃の寒気が北日本に流入し、北日本の山地を中心に、3時間で5cm未満の降雪を観測している所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 27日は、500hPa 5100m以下の寒冷渦に対応する低気圧は千島の東へ進む。850hPaで-6℃以下の寒気は、27日夜にはさらに北上し、北日本の降雪は次第に弱まる。1項③の高気圧は、27日夜には南東進し日本の南に中心を移すため、1項②の気圧の谷周辺には暖湿気が流入し、南西諸島～九州南部中心に雲が広がる。
- ② 28日は、2項①の高気圧は小笠原近海に進む。東シナ海の気圧の谷は、西～東日本太平洋側を東進して伊豆諸島付近に進む。気圧の谷に向かって、850hPa θ e318K以上の暖湿気が流入し、大気の状態が不安定となる所がある。南西諸島では28日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。また、500hPa 5100m付近のトラフに対応する低気圧が、アムール川中流域から沿海州付近に進む。
- ③ 3月1日は、2項②の伊豆諸島付近の気圧の谷は日本の東に進み、沿海州付近の低気圧は千島近海に進む。
- ④ 2項①～③の低気圧近傍では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高い所がある。東日本では27日は、北日本では3月1日にかけて、強風や風雪、高波に注意。
- ⑤ 北～西日本では積雪の深さが平年比で200%以上となっている所がある。2項①～③の低気圧に向かって流れ込む下層暖湿気の影響により、28日～3月1日にかけて気温が上昇し、日本付近は850hPaの気温が平年より5～10℃高い状態が続く。多雪地では、こしばらく、なだれや融雪に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ①雨量 (18時からの24時間) : 多い所 (100mm以上) はない。
- ②降雪量 (18時からの24時間) : 多い所 (注意報級以上) はない。
- ③波浪 (明日まで) : 北海道・東北3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。